

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1786号 2005年07月19日(火)

《 Greenspan testimony 》

今週予定されているものの中で一番の材料は、20日のグリーンズパン FRB 議長の金融政策に関する議会証言です。既にアメリカの債券利回りはこの証言を懸念して上昇してきており、これに拍車がかかるようだと米ドルの基調はさらに強くなる可能性がある。ロンドンの同時テロ後しっかりと推移してきた世界の株価にも調整が入るかもしれない。

市場では米経済の鈍化予想から、「FRB の利上げペースは今後一時中断するか緩くなる可能性がある」というのが一般的な見方だった。この前提の下に、米債券利回りなどは10年債で見て4%を割った時期もあった。しかしここに来て状況は変わりつつあり、「グリーンズパンは今週の議会証言の中で、米金利の継続的引き上げ方針を明らかにするのではないか」との見方が強まっている。こうした動きを受けて、既に今週の取引を始めている米債券市場では、先週までの金利ジリ高傾向を続け、指標10年債の利回りは4.19%に近いところまで上昇している。

実際のところ、過去一週間ほどの米金融当局者の発言は、「米経済は強さを維持している」との見方に立つ発言が多い。こうしたことを背景に、ウォール・ストリート・ジャーナルには

「Recent remarks by Fed officials have made clear that the central bank considers the economy strong enough to keep in place its current program of steady, quarter-point increases. The signals were a disappointment to the fixed-income market, which has been rooting for a break in interest rate increases.」(米FRB関係者は、同国経済は現在の0.25%刻みの利上げを継続するに十分なほど強いとの見方を明確にしている)

といった見方が掲載されている。原油相場の相対的高値維持に加えて、FRBの金利引き上げ姿勢が従来想定されていたものより強いものになれば、今まで4%前後で安定していた米長期債利回りは、上放れる可能性が出てくる。

米金利の上昇は、為替相場にも影響を与える。筆者が見るところ、対円でも対ユーロでもドル相場にはロングの集積が見られる。この結果、米金利が一段と上昇する見通しが強まっても、すんなりドルが上昇するとは限らず、一度ドルの反落局面を迎えるかもしれない。し

かし、その後の動きはやはり米金利が高ければドル高再燃という可能性が高くなる。金利が高い通貨をショートし続けるのはしんどいからだ。今週は、この見極めをする週ということだ。

もっとも、アメリカの物価情勢は安定している。先週発表された6月の消費者物価指数や卸売物価指数は、ともに前月比横ばいとなった。ともに、インフレ圧力の後退を示す内容で、こうした中でも改めて利上げの継続姿勢をグリーンSPAN議長が打ち出せば、それは中・長期的にドルに買い安心感を広める可能性がある。

《 political turmoil in Japan ? 》

日本の政局があまり相場材料にならないことは先週も述べたとおりだ。この見方を筆者は基本的には変えていない。しかし、市場では徐々に「参議院が郵政法案を否決した場合には、解散からさらには政界の大きな再編にまで繋がる可能性が強い」との見方になりつつある。筆者もそう思う。私は直接には小泉さんに会ったことはないが、状況証拠を積み重ねていくと、参議院での郵政法案否決はほぼ確実に衆議院の解散に繋がりそうだ。

その場合は、自由民主党は造反議員を公認しないと言っているから、造反議員のグループは新しい政党を作る可能性が強い。それは政党助成金の関係から言ってもそうなる。政党に属さなければ、デメリットはあまりにも大きいからである。ではその政党は誰をトップに据えて、どういう構成で作るのか。民主党から参加する人は出てこないのか、それとも造反議員のかなりの数が民主党に流れるのか。一部は流れるかもしれないが、やはり「新党結成」の可能性が強い。その場合には、一気に政界再編になる可能性が高い。その場合には、「一寸先は闇」の様相が強まる。これは円売り材料だ。

また郵政法案の参議院の否決は、世界中の投資家から日本における「構造改革の頓挫」と受け止められる可能性がある。「前に進め」方式の政府の政策は、このところインドでも、欧州でも頓挫している。インドではバジパイ政権が破れ、欧州ではEU憲法がフランス、オランダで否決された。そういう流れで行けば、日本の郵政法案も参議院では否決される可能性が十分ある。

それは「大きな政府か小さな政府か」の哲学論争の観点から見ると、議会在「大きな政府」に軍配を上げたと言うことになるから、その後の総選挙の結果や政界再編の動きを見なければ分からないが、「小さな政府への流れ」を信じて利回りを低くしてきた債券市場にとっては、ショックとして働く可能性が強い。その場合には、株価も調整を避けられない。

おそらく参議院での票読みは、投票の直前まで続くだろう。どちらのサイドから見ても「予断を許さない」という状況が続く。そういう意味では、今回の日本の政局は、株、為替、債券相場を動かさしめる。

今週の主な予定は以下の通り。

7月18日(月)

東京市場休場(海の日)

7月19日(火)	米インド首脳会談(ホワイトハウス) ベトナム大統領が中国訪問(~24日) 5月景気動向指数(改定値) 米6月住宅着工件数
7月20日(水)	6月北米半導体製造装置BBレシオ 6月コンビニエンスストア売上高 6月半導体製造装置BBレシオ 渡辺財務官講演(「中国経済と人民元改革問題」) グリーンスパン米FRB議長議会証言(金融政策について)
7月21日(木)	6月貿易収支 福井日銀総裁講演(「リテール金融新時代の展望」) 本間ゴルフ上場廃止(ジャスダック) 米6月コンファランスボード景気先行指標総合指数 米7月フィラデルフィア連銀指数 ECB理事会
7月22日(金)	5月第3次産業活動指数

《 have a nice week 》

3連休でしたが、いかがでしたか。休みの間に梅雨明け宣言が日本のかなりの部分に出た。しかし今年の場合、集中豪雨はあったが慣れ親しんだ形での梅雨はなかったような。あのしとしと降る雨の感じです。

BS1のワールド・ニュースというのは、世界各国の関心がどこにあるか知るのに非常に都合が良いのですが、この週末に韓国のKBSかなにかのニュースを見ていたら、「梅雨明けとともに……」というアナウンサーの声が聞こえて、「へえ韓国にも梅雨があるんだ……」と我ながら思いました。人間はだれでも自分中心に物事を考えがちで、韓国の人たちに言わせれば、「へえ、日本にも梅雨があるんだ……」と思うでしょうね。しかし、日本でも北海道は梅雨がない。だから、北朝鮮の北の方は梅雨がないかもしれない。

人間はどうしても自分中心だなと思ったのは、いつだったか「ソバ」が世界中で栽培されている植物であることを知ったとき。オフィスの近くに「カフェ・クレプリーール・ブルターニュ」(<http://www.le-bretagne.com/j/galette.html>)の表参道店があって、このクレープとガレットの店のメニューには

『「ソバ」というと日本のものというイメージがありますが、実は、アジアはもちろん、ヨーロッパやアメリカ大陸でも栽培されているグローバルな作物なのです』

とメニューに書いてある。その時、「へえ」と驚きました。蕎麦なんて、日本の作物だと思っていましたから。しかし実は、ロシアにも蕎麦粉を使ったガレットのような食べ物があるのだそうです。へえ、ロシアの蕎麦ね。いやああいう「おそば」ではないのですが。

クレープとガレットは同じような形状でも、小麦粉を使ったのがクレープ、蕎麦粉を使ったのがガレットということになる。ということは、例え分かりやすくしたとしても、ガレットを「蕎麦粉のクレープ」と表現するのはおかしい。最初から、ガレット、クレープと表現しないと。それにしても、「蕎麦はワールドワイドな作物」とは勉強になったのです。

梅雨の話からガレットへと、話題が飛びました。もうちょっと話を外すと、韓流は日本のゲーム店にも進出したようです。この週末に、ユンソナマシンを見つけました。

それでは、皆様には良い残りの一週間を。

《当「ニュース」は、住信基礎研究所主席研究員の伊藤 (E-mail ycaster@gol.com) が作成したものです。許可なき複製、転送、引用はご遠慮下さい。また内容は表記日時に作成された当面の分析・見通しで一つの見方を示したものであり、売買を推奨するものではありません。最終的な判断は、御自身で下されますようお願い申し上げます》